

## 困窮する子育て世帯に支援の手が行き渡るために

新型コロナウイルスの影響もあり先活困窮者が増えています。日頃より様々な相談を受けておりますが、衣食住に関係する生活困窮の状況は切羽詰まるものとして手を差し伸べなければなりません。特に子育て世帯の場合には、子どもたちへの影響が心配されます。私共も行政と協働し対応していきます。多くの皆さんが、自分ごとのように考え手を差し伸べる社会になることを願います。

### 満足な食事をとれない子どもたちが増えている

「休みの日、お米もからっぽで、食べるものもなく、朝、昼と何も食べられなかった。」「子ども2人、夜、お腹がグーグーなりながら寝たこともありました。」「夫が体調不良で、私は育児休暇で、収入がほとんど無かった時、食べる事も大変でした。」これは、生活困窮世帯への食料支援を行っている認定NPO法人フードバンク山梨が昨年8月に行った「支援世帯向けアンケート調査」の回答に寄せられた、利用者の切実な声の一部です。

こうした困窮世帯を救うための代表的な公的支援は生活保護手当です。しかし、「受給のハードルが高い」という見方が一般的です。このため、生活保護基準を下回る経済状態の世帯のうち、現実に生活保護を利用している割合（捕捉率）は約2～3割に留まっていると言われています。



厚生労働省では、コロナ不況の深刻化を踏まえて、昨年12月から同省ホームページ（生活保護を申請したい方へ）で「生活保護の申請は国民の権利です。生活保護を必要とする可能性はどなたにもあるものですので、ためらわずにご相談ください。」と異例の呼びかけをしています。また、「生活保護の申請について、よくある誤解」等の解説も載せるようになりました。（※1）

こうした政府の取組により、せっぱ詰まった困窮世帯が生活保護を受けるうえでのハードルは、いく分低くなったかもしれませんが。しかしながら、困窮家庭の多く（例：パートで日夜働いている、多子の母子家庭など）は日々の暮らしに余裕がなく、さらに“恥の気持ち”も強いので、役場に出向いて相談することもためらいがちです。また、当事者が勇気をふりしぼって役場に行っても、担当職員への説明が足らなかったり必要な書類を用意できなかったりして、適切な支援を受けられない場合も少なくないと感じています。また生活保護以外にも、困窮している子育て世帯のために様々な支援制度がありますが（※2）が、当事者への周知がまだまだ行き届いていません。

### 当事者に寄り添う訪問支援や同行支援の大切さ

そうした場合、特定の困窮世帯を訪問するなどして状況を把握している適切な支援者が役場等の窓口と同行して交渉を手伝ってくれると、申請や要望が通るケースが結構あります。例えば甲府市では、「ひとり親家庭等相談」事業（子育て支援課）により、母子・父子自立支援員や各地区のひとり親家庭相談員が、ひとり親家庭や寡婦の方の相談に応じています。

また同市（生活福祉課）では、NPO法人やまなしライフサポート（甲府市小瀬町654、山梨カトリック福祉センター内）に委託して、ひきこもり等で市役所の相談窓口に来られない生活困窮者に対して訪問支援を行っています。さらに山梨県教育委員会では、学校に通っているお子さんのいる要支援家庭に対して、各教育事務所に配置されたスクール・ソーシャルワーカーが面接や家庭訪問を行うとともに、必要に応じて各種の支援機関につないでいます。

しかし現状では、県内の子育て世帯の約1割といわれる生活困窮世帯に対して、訪問による相談支援や役場等への同行など、きめ細かな支援ができる体制や人材は全く不足しています。コロナ禍により生活困窮世帯の一層の増加が懸念される中、そうした当事者に寄り添う官民連携による相談支援の一層の充実が望まれます。

（※1）厚生労働省ホームページより  
（生活保護を申請したい方へ）

（※2）山梨県子育て支援局・作成  
「やまなし子どもサポート情報」



## 活動報告

### 人権啓発パネル展

2月4日(木)～2月17日(水)、甲府市役所・甲府市南西公民館において命のメッセージ展」と題して人権啓発パネル展を開催しました。



### 人権啓発講演会

2月15日(月)、甲府市役所庁舎において、2月16日(火)甲府地区広域行政事務組合消防本部において、人権啓発講演会を開催しました。



人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ  
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室  
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. [yamanashi@yihrc.or.jp](mailto:yamanashi@yihrc.or.jp)

協賛企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

<協賛>  
山梨県  
甲府市  
甲斐市



## 国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチだより (2021 年 2 月号)

甲斐市立双葉中学校 (男子)

講話を聞いて生きるっていう事は、とても大事な事だとあらためて思った。普段あたりまえのように生活しているけれど裏で家族などのいろいろな人が自分のためにいろいろなことをして毎日感謝して生活していること思った。途中でビデオを見て、生活に苦しんでいる人がたくさんいることが分かった。よくコンビニとかで寄付を行っているのを思い出して、もし今度、そんな人たちが立ていたら少ない金額でも寄付したり、ヘルプボトルキャップを集めたり、生活に苦しんでいる人たちを助ける手助けは、たくさんあるから自分からそんな事に参加して少ない人数でも助けることかできたらいいなと思う。

普段の生活でバスとか電車を乗った時に年寄りの人がいても恥ずかしくて声をかけてあげられなかったり、見過ごしてしまうことがあるから勇気を出して声を掛けてあげようと思った。学校生活でも友達を大切にしたい。見の回りに気をくばれるようにしたいと思う。家族も大切にしたい。将来、今度は、自分が運転してどこかへ行っていったりして恩を返していきたいと思います。

これからも命を大切にしたい。もう4年生だと思う時もあると思うけど自分だけじゃないから、見の回りの人に相談したりして少しでも気持ちかやわらけようようにしていきたい。

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲斐市立双葉中学校 (女子)

私は今日、人権議和を聞いて社会で勉強した以外に人権とは“自分の命を守るもの、自分の幸せを守るもの”という事がわかりました。また、世界にはたくさんの人々がいて、暮らしも全然ちがっていてもおどうも動画では特にアフリカの人々が戦争によってたくさん苦しめられていて、食べるものも、住む場所もない現状を見て、私たちが住む世界に暮らしているのか思いしらされました。また戦争に苦しめられ、助けを求めている人を助ける国境なき医師団を見て、そういう人が私たちの住む世の中にいると思うととてもすごいな、かっこいいなと思う。私も誰かを助けることができる人になりたいなと改めて思いました。意味もなく殺されたりする世の中、戦争は本当によくないし、なくなしてほしいです。私たちは今、思いつくだけでも「死ね」「うざい」みたいな事という人がいますが、そんな事言いたい言いはいけないことだと思いました。死にたくなくても殺されたり、とつせも意味もなく殺されたりする人がいっぱいいるからこそ、簡単に死にたいや死ねなどは言わないでほしいなとわかり、とても勉強になりました。私たちの住む世界は本当に幸せで当たり前だと思っている事がよく幸せに気づかなくて、たくさんの人に支えられ生きているのだと思います。これから嫌になったりあきらめなくなるころがあると思いますが、生きている事に本当に感謝して周りの人の事を考え、助けられる人になりたいです。また、自分の事を生み出した親や支えにくれたたくさんの上に感謝して自分も周りの人に感謝して生きたいです。今日、生きていることの素晴らしさを改めて知ることができました。